

2016 年度 FD 広報プロジェクト活動計画（案）

FD 広報プロジェクト・リーダー 竹口圭輔

1 活動目的

- ・ FD 活動とその意義について、校内での認知度を高める。
- ・ 学生に対して、学習支援関連の情報を提供するとともに、コンクールを通じて FD に対する関心を喚起する。
- ・ 教員に対して、授業改善に役立つ情報や資料を提供する。

2 活動計画

(1) FD 学生の声コンクールの実施

- ・ 昨年度は応募要件を緩和したものの応募総数は増えなかった。今年度は声コンのあり方についても再検討しつつ、より柔軟に学生の声が拾い上げられるようなコンテストへの移行を目指す。

※応募件数 2013 年度 60 件、2014 年度 66 件、2015 年度 53 件

- ・ キーワード式のテーマに変更し、指定したキーワードのいずれか、あるいは両方から連想する大学での学びや学外での活動など、自らの成長に関わった経験などを自由に表現してもらう。なお、今年度声コンのキーワード（出会い・教室）は声コン新聞に掲載済み。
- ・ また、授業作品が散文に偏っていたり、応募者が特定の学部やゼミに偏っている傾向があるため、予算の制約を考慮しつつ、部門別の表彰や Twitter 部門の新設等も検討する。
- ・ 昨年度からの引き継ぎ事項として、募集要項には言語の指定（日本語あるいは日本語と英語のみ？）、作品公開の旨を明記する。
- ・ 6 月までに新部門の検討・募集要項の詳細確定、7 月に募集要項公表、10 月締め切り、12 月授賞式・座談会のスケジュールで進めていく。認知度を向上し、幅広く学生を集めるという目的から、7 月の授業改善アンケート実施時期に重点的に告知を行いたい。
- ・ 例年通り、受賞作品と受賞者座談会の成果は、タブロイド版新聞形式で印刷し配布する。

(2) 学習支援ハンドブックの編集、活用事例の収集等

- ・ 今年度は業者の変更が予定されているため、必要に応じて内容についても改訂を行っていく。昨年度から積み残している点は「校正記号」。

- ・ 配りっぱなしの現状から脱却するため、教員や学生による実際の活用事例等を収集し、広く利用してもらえるようなアイデアを検討していく。
- ・ その他、付属校でのハンドブック活用事例や他大学での同様な取り組みの調査も行いたい。

(3) FD 広報活動の充実化

- ・ FD 推進センターNewsletter を引き続き年 7 回程度発行する。FD 関係者へ取材し、これまでの FD 活動を振り返るほか、FD 推進センターによる事業以外の各学部をはじめとする教学単位の取り組みについても情報収集し、記事を依頼または執筆して学内の FD 活動情報の共有を図る。
- ・ 他の FD プロジェクトとの情報共有をすすめ、共同での広報活動を推進していく。
- ・ その他、FD 推進センターの HP の改善、アクセシビリティの向上や内容の充実等も引き続き進めていく。

以上